

この度は「APHS 2023 Scholarship」に選出いただき、誠にありがとうございました。

私は APHS に初めての参加ですが、今回はマレーシアのペナン島で9月20～22日に開催されました。開催場所の Setia SPICE Convention Centre は2022年に完成した会議場で、周辺も巨大な建物が建設中であり開発途上の地域と思われました。

私の演題は TAPP におけるメッシュ固定法の工夫です。演題採択通知(e-poster)がきて、発表データも期限内に登録しました。開催が近づいても学会プログラムはなかなか更新されず、前日に確認しても web 上のプログラムに e-poster の演題は記載されていませんでしたが、APHS での e-poster は毎回そうなのかもしれないと思っておりました。やや不安を感じながら会場に到着、e-poster は発表する時間帯は設定されておきませんので、会場の運営事務局が用意したプロジェクターとパソコンを操作してリストの中から選んで参加者が自由に閲覧、質問はメールで問い合わせという形式のようでした。しかし、学会が始まってもプロジェクターは用意されておらず、午後から3台設置されましたが、閲覧リストは番号が抜けているところが多く、自分の登録したデータもリスト上に見つけれませんでした。学会運営事務局に問い合わせてみましたが、返答はなく、2日目の午後になってもリストにすら載らず、結局、閲覧できない状態であったことは大変残念としか言いようがありません。海外の外科医と意見交換できる貴重な機会になると楽しみにしていたのでショックでした。私としては想定外のことでありましたが、海外の学会ではこうした事案にも対応できるように準備が必要なのだ痛感いたしました。会場で聴講した発表では巨大な腹壁ヘルニアの治療の工夫などが多くあり、東南アジアにおける注目度の高さが印象的でした。話題となるヘルニアの種類や治療法が国により異なり、学会の運営も開催国により対応が様々であることが勉強になった国際学会となりました。日本の学会運営は大変優れており、学会準備の方々のご苦勞は計り知れないものだと、改めて感謝の思いを強く持ちました。学会の後はマレーシア伝統のニョニヤ料理や世界遺産である歴史的街並み、それと一体化したストリートアートを楽しみました。

今回の貴重な経験をさせていただきました、JHS 国際委員会委員長 三澤健之 先生、JHS 理事長 蜂須賀文博 先生をはじめ、関係者の皆様に深謝いたします。後遺症や合併症のない、患者さんに優しい低侵襲なヘルニアの治療に取り組み、日本ヘルニア学会の発展にも寄与することができるように努めたいと思います。